

第2回青森県民駅伝競走大会レースの概要

第1区（八甲田丸～フェリー埠頭；5.495 km 一般）

今にも雨が降り出しそうな曇り空。今大会からスタート地点の選手の位置は、1列目と2列目に昨年度大会の上位チーム（市は6チーム、町・村は8チームづつ）をシードし、その他のチームは抽選により配置した。

スタート後、中間点あたりまでは、むつ市、黒石市、八戸市、福地村、南郷村等が先頭集団を形成。ベイブリッジを越えたあたりから、むつ市の金澤選手が飛び出し、区間新記録のタイムで2区へ引き継いだ。

第2区（フェリー埠頭～聖徳公園；3.2 km 中学生男子）

中半で八戸市の西村選手が力強い走りで、むつ市を抜き去り、先頭に立つ。川内町の戸澤選手が追い上げ、12人抜いて区間ラップの快走をみせ第2位に浮上。

また、大鰐町の高屋選手が区間2位の記録ながら21人を抜いて21位まで上がり、町の部の優勝争いの基盤を作る。

第3区（聖徳公園～合浦公園；2.9 km 女子）

レース途中から雨が降り出す。八戸市が順調に走り先頭を維持し、これをむつ市、青森市が必死で追い上げるが、その差は詰まらずむしろ徐々に開き1分の差となる。

村の部では、六ヶ所村が快走をみせ、4位に浮上する。

第4区（合浦公園～野内；4.0 km 一般）

激しい雨の中のレースとなった。八戸市が2位以下のリードを広げながら依然トップを保つ。これを青森市、むつ市が追い、僅かの差で東北町、弘前市がこれに続く。

野内中継所では、大会規定により先頭から10分以上の差となった6チームを繰り上げスタートさせた。

第5区（野内～諏訪沢；5.3 km 一般）

八戸市が区間ラップを奪う快走をみせ、2位以下との差を徐々に広げ1分30秒の差となる。2位以下は、青森市、むつ市が続くが、この区間で再び六ヶ所村が4位に浮上する。

第4区まで4位を保っていた東北町の選手が、中継所を目前にして体調不良のため倒れ、救急車で病院に運ばれたため、途中棄権の扱いとなる。（なお、同選手は病院で休養後無事回復する。）

第6区（諏訪沢～戸山団地；5.4 km 一般）

雨は止まず、むしろ激しくなる一方である。八戸市が再び区間ラップを奪う快走をみせ、2位以下との差を2分30秒に開き、独走態勢をつくりあげる。

これを、青森市、むつ市、六ヶ所村、黒石市が続く。東北町が抜けたため、町の部の先頭争いは、三戸町、川内町、下田町、大鰐町となりその差は僅かである。

戸山団地の中継所では、大会規定により先頭から15分以上の差となった9チームを繰り上げスタートさせた。

第7区（戸山団地～幸畑；3.7 km 女子）

先頭の八戸市は順調に走り、相変わらず先頭を保つ。これを弘前市が快走をみせ、必死に追い上げ2位に上がるが、八戸市との差を詰めることができず、3分30秒の差となってしまふ。町の部は大鰐町が7位に、階上町が区間ラップを奪う快走をみせ9位に浮上し、町の部の先頭争いは激しくなる。

第8区（幸畑～流通団地入り口；5.2 km 一般）

最もアップダウンの激しい難しいコース。降りしきる雨の中、市町村の必死のレースが展開される。八戸市は区間ラップを奪う快走で、2位以下を大きく引き離し依然先頭をキープする。青森市が再び2位となるが、先頭との差を詰めることはできない。村の部はこの区間で六ヶ所村が快走をみせ弘前市を抜いて3位に浮上し、追い上げる南郷村との差を約4分にひろげる。

順調に走る先頭集団とは対照的に後続のグループが徐々に遅れはじめ、先頭との差がかなり大きくなってしまふ。そのため、流通団地では大会規定により先頭から15分以上はなれた33チームを繰り上げスタートさせた。（流通団地に最後に到着したチームとの差が約27分となり最も大きな差となった。）

第9区（流通団地入り口～細越；3.2 km 40歳以上男子）

40歳以上男子の区間であり各市町村の実年ランナーが力走する。ここでも八戸市が区間ラップを奪う快走で先頭を走り、遂に2位以下との差が4分となる。

2位以下は青森市、六ヶ所村、弘前市が続く。町の部は下田町が一步リードし、階上町、三戸町、大鰐町が続くがその差は僅かであり、アンカー勝負となる。

第10区（細越～県陸上競技場；3.8 km 中学生男子）

降り出した雨は遂に止まず、県小学生陸上競技記録会の行われている県総合運動公園陸上競技場に向かう。先頭の八戸市は4分の差を保ったまま順調に走り、そのままゴールにとびこみ2年連続の優勝（優勝タイムの2時間10分00秒は昨年の大会記録を3分40秒短縮）。市の部は第2位に青森市、第3位には弘前市が入賞した。六ヶ所村が第8区で浮上して総合第3位を保ちゴールし、村の部で2年連続の優勝（2時間16分04秒は昨年の六ヶ所村の記録を1分55秒短縮）。第2位に南郷村、第3位には福地村が入賞した。

町の部は、下田町が第9区で総合第8位に浮上し、そのままゴール。町の部初優勝となる（2時間18分29秒は昨年の下田町の記録を5分26秒短縮）。第2位に大鰐町、第3位には三戸町が入賞した。

八戸市の圧倒的な強さが目立った大会であった。記録的には、昨年の記録を塗り替えた市町村が多く、また最後尾も2分以上短縮しており、雨天というコンディションにもかかわらず、全体として昨年を上回るレース展開であったといえる。

しかし、初めて経験した雨の中でのレースであり、選手にとってはコンディションの維持、運営サイドにとっては、円滑な記録処理や荷物輸送等競技運営上の様々な課題を残した大会でもあった。